

第10回 構造分科会議事録

1. 日 時：平成16年 5月24日(月) 14:00～16:30

2. 場 所：(社)日本電気協会 A, B会議室

3. 出席者：(敬称略, 順不同)

出席委員：小林分科会長(東工大), 設楽幹事(東京電力), 岸田(IHI), 斉藤(日立製作所), 三木(富士電機), 富松(三菱重工業), 岡村(電源開発), 小柴(中国電力), 水繰(九州電力), 鈴木公明(日本製鋼所), 鹿島(電力中央研究所), 鈴木雅秀(日本原子力研究所), 島田(海上技術安全研究所), 藤浦(発電技検), 山下(核燃料サイクル機構), 秋本(原子力安全基盤機構), 小川(青山学院大学)(計17名)

代理出席：古川(東芝・前川代理), 玉井(北海道電力・船根代理), 清水(東北電力・佐久間代理), 上野(北陸電力・米田代理), (計4名)

常時参加：小倉(横浜国大)(計1名)

欠席委員：山田(中部電力), 千種(関西電力), 広瀬(四国電力), 大岡(日本溶接協会), 柴田(日本原子力研究所), 武山(原子力安全・保安院), 酒井(東京大学), 庄子(東北大学), 吉村(東京大学)(計9名)

オブザーバ：大畑(日本原電)(破壊靱性検討会)(計1名)

事務局：浅井, 池田, 上山, 福原(日本電気協会)(計4名)

4. 配付資料

資料 No.10-1 第9回構造分科会議事録(案)

資料 No.10-2 第14回原子力規格委員会議事録(案)

資料 No.10-3 構造分科会各検討会委員名簿(案)

資料 No.10-4-1 JEAC4201 原子炉構造材の監視試験方法 改定案の原子力規格委員会書面投票結果について

資料 No.10-4-2 JEAC4201 原子炉構造材の監視試験方法 改定案(原子力規格委員会書面投票版)

資料 No.10-5-1 JEAC4206「原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認方法」改定案の分科会書面投票結果について

資料 No.10-5-2 JEAC4206-2000 原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法 改定案(構造分科会書面投票版)

参考資料 - 1 第12回基本方針策定タスク 議事録(案)

参考資料 - 2 第3回原子力関連学協会規格類協議会議事録(案)

参考資料 - 3 規制基準・民間規格体系図

参考資料 - 4 原子力規格委員会運営規約細則

5. 議事

(1) 会議定足数の確認、代理出席者の承認

事務局より、委員総数31名に対し、代理出席者も含めて本日の委員出席者数21名で、会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席」を満たすことが報告された。

また、本日の代理出席者、計4名(上記3.参加者参照)について事務局より紹介があり、規約に基づき、小林分科会長に代理出席者としての承認を得た。

(2) 前回議事録(案)の確認

資料 No.10-1 に基づき、事務局より前回議事録(案)の紹介があり、一部誤記修正の他は特にコメントなく了承された。

(3) 第14回原子力規格委員会議事録(案)の紹介

資料 No.10-2 に基づき、事務局より第14回原子力規格委員会議事録(案)のうち、構造分科会関連のトピックスとして以下の内容が紹介された。

- 1) JEAC4202-1991 フェライト鋼の落重試験方法改定案、JEAC4203-1994 原子炉格納容器の漏えい率試験規程改定案、及び JEAG4207-2000 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験指針 改定案の公衆審査意見への対応案が了承され、3件とも成案となった。
- 2) 構造分科会 規格改廃要否及び平成16年度活計画他が了承された。
- 3) 現時点では取り決めのなかった、原子力規格委員会書面投票以降の、編集上の修正以外の対応については『その処置を委員会でその都度決定する』との運営規約細則修正案が決議された。
- 4) 第3回原子力関連学協会規格類協議会の審議を経て、前回基本方針タスクにおいて『新規作成のものも含めて各分野における原子力規格委員会としてあるべき規格体系の検討』の依頼が各分科会宛に要請された。

構造分科会としては、次回分科会を目標に、次年度活動計画として短・中・長期計画を策定することとあわせて、構造分野における規格体系検討を各検討会にお願いすることとなった。

(4) 検討会委員の変更について

資料 No.10-3 に基づき、構造分科会所属の各検討会委員変更が紹介され、出席委員全員の賛成で了承された。変更内容は以下のとおり。

(破壊靱性検討会)

藤浦委員(発電技検)(退任) 佐藤 長光氏(発電技検)(新任)

山下委員(東京電力)(退任) 平沼 巨樹氏(東京電力)(新任)

(機器配管設計検討会)

横田委員(三菱重工業)(退任) 吉賀直樹氏(三菱重工業)(新任)

(ASME Sec. XI 対応検討会)

上田委員(IHI)(退任) 平野 隆氏(IHI)(新任)

橘川委員（東芝）（退任） 角川 清春氏（東芝）（新任）

（５） 「JEAC4201-2000 原子炉構造材の監視試験方法」改定案の原子力規格委員会書面投票コメント対応案の審議

資料 No.10-4-1,2 に基づき、富松分科会委員（破壊靱性検討会主査）及び大畑氏（破壊靱性検討会委員）より題記対応案について、説明があった。

審議の結果、提案の修正対応を行うこと、この修正は技術的内容の変更ではないとの位置づけとすることとして次回原子力規格委員会に諮ることについて、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成で決議された。

上記以外に関する意見は以下のとおり。

- (a) 資料 No.10-4-1 中の No.2-8 (SA-4100 監視試験計画) における記述事項『(1) …対象となる原子炉压力容器』ではわかりにくいとのコメント対応案として『…対象となる原子炉压力容器の名称』と下線部を追記する、とされているが、現行どおりの表記が一番適切なため修正を行わない。

（６） 「JEAC4206-2000 原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法」改定案の構造分科会書面投票反対意見対応案の審議

資料 No.10-5-1,2 に基づき、富松分科会委員（破壊靱性検討会主査）大畑氏（破壊靱性検討会委員）より題記改定案の分科会再書面投票反対意見及びその対応案について、説明があった。

審議の結果、以下の修正対応を行うこと、修正結果について分科会長・幹事が確認する、の結果を分科会書面投票反対意見者宛に通知するとともに３回目の構造分科会書面投票に諮る、との手順で進め、その結果を次回原子力規格委員会に諮ることとなった。

修正箇所及び意見は以下のとおり。

- (a) (資料 No.10-5-1 中の No.2-1『クラス 1 機器支持構造物』は下線部を削除し、JSME 設計・建設規格と整合を図る。
- (b) (資料 No.10-5-1 中の No.3) 前回は上部柵エネルギー低下を考慮した維持規格の判定基準を満足するという記述は不適切といいながら、今回は体積試験で有意な指示があった場合は JSME 規格に従い評価し許容基準を満足することとしていることは矛盾している。対応案の a, b 項は具体的に準備する出来るものを適切に表記すること。上部柵の吸収エネルギーの低下を意図して b 項が記載されているが、付録 7 を準用して記載した方が適切では。
- (c) (資料 No.10-5-1 中の No.5) 図の縦軸にある (KI/δ_h) は応力拡大補正係数であることを詳しく説明すべき。

なお、上記 JEAC4201 改定案と JEAC4206 改定案は両者で一对をなす規格であり、相互に引用関係にあることから、未整備の（改定途中の）規格の引用を避けるために少

なくとも公衆審査手続きは同時に実施する必要があるが、その場合委員会規約第 15 条（公衆審査）にある『議案決議の場合、決議の日から 3 ヶ月以内に公衆審査を開始する』との要求から逸脱することとなる。

構造分科会としては両案同時成案を目標とすることで、諸手続きの取扱いは次回原子力規格委員会のご審議いただくこととなった。

（ 7 ） その他

次回分科会審議案件は JEAG4208 改定案及び構造分科会における規格体系整備の件とし、3 ヶ月後を目途に開催時期を調整することとした。

以 上